

**宝塚市の財政運営における
実施計画策定にあたっての緊急提言**

平成 1 4 年 5 月

宝塚市行財政システム改革推進委員会
委員長 山口 多賀司

平成14年 5月15日

宝塚市の財政運営における実施計画策定にあたっての緊急提言

宝塚市行財政システム改革推進委員会

委員長 山口 多賀司

本委員会は平成13年6月から、宝塚市の行財政システム全般にわたりそのあり方を検討し、今後の財政改革の方向性を議論しているところである。

昨年11月には平成14年度予算編成にあたり、可能な限り反映されることを願い、第1次提言を市長に提出し、その提言の中に平成14年度中に着手してほしい項目を盛り込んだ。

最新の財政計画を見ても、歳入の根幹を占める市税は、年々大幅な減少が続く、今後の見通しについてもその回復は見込めない、極めて厳しい状況にある。

加えて、3年後の平成17年度には取り崩しできる基金がゼロになるという異常な事態が予想されている等、近い将来財政的破綻をきたす恐れが多分であり、大変憂慮されるところである。

そこで本委員会は今後の財政運営に大きく影響を与える実施計画の策定にあたって、重ねて緊急に取り組み願いたい事項について下記の通り提言するので、その実現に向け早急に着手されたい。

1 事業の選択にあたって

実施事業の抑制について

現在の厳しい財政状況を改善するために、すでに前回の第1次提言において触れたが、半年前に比べて財政状況が更に悪化し、危機的な水準に近づいていることを重く受けとめ、特に繰り返し提言する。

第4次総合計画の前期の期間は、行財政システムの確立と公社や第3セクターの「負の遺産」の清算に集中し、歳入に見合った事業規模に極力近づけるために、可及的速やかに市全体の事業の優先順位付けを行い、実施する事業を最大限抑制されたい。

事業の大胆な見直し

本市の厳しい財政状況のもとでは、投資的経費のみならず経常的経費等全般についても、大胆に発想を転換し、総額を縮減し、既存事業の改廃を行う

など、積極的に事業選択を組み替えること。

過去、財源の確保が比較的容易であった時代の感覚で、既存の施策や事業が継続できないことの自覚が必要である。

時代のニーズに合わせて、大きくパラダイムの転換を図り、施策のシフトを行うために、ソフト事業についても十分な論議のうえ、事業選択を行ってほしい。

財政情報の開示

本市の財政状況について、たとえ厳しい内容のものであっても臆さずに情報公開を進め、市民との間で危機意識を共有することが必要である。

外郭団体等の財政状況を公表し、今後の財政運営のなかで、市民にどの程度痛みを伴うかを具体的に示すなど、情報公開に一層の努力をされたい。

2 財源調達のかえ方について

財政計画との整合性

実施計画の策定にあたって財政計画との整合性を図り、財源不足が生じないように努められたい。

基金の取り崩し

平成14年度の予算編成においては依然として多額の基金の取り崩しに頼った予算となっている。これは収支のバランスのとれた予算編成という観点からはほど遠い内容であり、予算は実施計画の内容に大きく左右されるものであるため、事業の採択にあたっては、特定目的にかかわる基金を除く、基金の取り崩しを極力回避するよう取り組んでほしい。

市債発行

市債発行にあたっては、宝塚市の市債償還能力の分析につとめ、それを保つ範囲を超えた発行を極力避けるよう留意されたい。

以上、第1次提言内容と重複するが、最新の財政計画等を見て近い将来財政的破綻をきたす恐れが多分にあり大変憂慮されるので、財政運営における実施計画策定にあたって、重ねて緊急に取り組み願いたい事項について提言する。

なお、本委員会は現在部会活動を積極的に開催し、行財政システムの改革推進のため、各部会においてそれぞれテーマを掲げ議論を交わしているため、いづれ各部会の意見をまとめ提言する予定である。